

コロナ禍でも成長するベトナム

——党大会も終えた現在の投資環境・経済状況と各業種の今後の見通し

成長する東南アジアの中でも特に期待が大きいベトナム。

社会・経済の概況、企業の進出状況・見通しは。(2021年3月26日開催、日外協「アジアシリーズ講演会」から抜粋)



弁護士法人キャストグローバル
代表弁護士・税理士・香港ソリシター
村尾龍雄



同法人 パートナー
CastGlobal Law Vietnam Co., Ltd.
代表弁護士 **工藤拓人**

国内市場拡大で多様な業種が進出

——工藤弁護士

ベトナムに進出する日本企業は増え続けている。

ホーチミン、ハノイ、ダナンの3都市にある日本の商工会議所には合計2千社が加入。非加入の企業を合わせると4千社は進出していると言われている。最近の進出の特徴は、国内市場の拡大とともにサービス業を含め進出業種や投資金額の幅が広がっていること。10～20年前は大型製造業による工業団地への進出ばかりだったのが、中小の製造業やサービス業が増加。M&Aや合弁形態での進出もさらに多く見られるようになった。

法務リスクなどの検討が不十分な例も散見されるものの、外資企業に対する事例が多く積み上がってきているので、不確定事項はかなり減っている。法・制度が整備され行政の透明化も以前より大きく進んだ。もっとも、2021年には投資法、企業法、労働法などが新法に置き換えられるなど、法律の変更なども続いており常に最新法令・実務の情報を得る必要がある。

コロナ禍は初期の徹底的な隔離措置と感染者への接触者の追跡などによって感染拡大を抑え込んだ。2020年の実質GDP成長率は2.91%。第3四半期は2.69%、第4四半期は4.48%の成長と回復は顕著。成長をけん引した輸出は通年

で6.5%伸びた。特に電子・電子部品(前年比24.4%増)、機械・機械設備(同47.8%増)が好調。2021年は6%台後半の成長が予測されている。

2045年に先進国入りを目指す

ベトナム共産党第13回党大会が2月1日に閉幕、新指導部が選出された。最高指導者グエン・フー・チョン書記長が留任し異例の3期目を務める。チョン書記長が兼務していた国家主席には首相を務めていたグエン・スアン・フック氏が、首相にはファム・ミン・チン氏が就任した。チン氏は越日議員連盟の会長を務めている知日派だ。



グエン・フー・チョン書記長 (写真: AFP =時事)

6.5%～7%の経済成長を続け、1人当たりGDPを2020年の3500ドルから25年には4700～5000ドルに伸ばし、さらに建国100周年となる45年には先進国入りを目指すとの目標が打ち出された。ただし、目標実現のためには停滞する国有企業改革、南シナ海を巡り先鋭化する中国との海洋権益問題、需要の拡大に追いつかない電力供給不足などの課題を克服する必要がある。